

永観堂の四季（もみじ）

年間を通じて、永観堂の境内は季節ごとの美しさを持ち、次の季節へと移っていく。毎年季節ごとに恒例の行事が開催されている。一年の中でのハイライトは秋で、寺院に祀られている宝物や遺物の特別展や、有名な紅葉が1か月にわたってライトアップされている。

春

2月上旬から、釈迦堂近くの庭の白梅が最初に咲く。3月には桜が続き、4月上旬に満開になる。多宝塔の下からは、寺院の境内に広がる花々が一望できる。お釈迦様の誕生日（灌仏会）は4月8日に祝われ、月末には浄土宗の創設者のための御忌会（ぎよきえ）が開催される。

夏

夏になると、最初はツツジ、その後は百日紅（さるすべり）が境内に咲き、放生池は花に囲まれる。緑蔭法話と呼ばれる3日間の野外説教が毎年7月下旬から8月上旬に開催される。これらの法話への出席は無料で、僧たちの伝統的な朝食、おかゆが提供される。

秋

永観堂は「もみじの永観堂」として有名で、毎年秋になると、境内にある日本もみじの木が深紅と赤褐色の崇高な色合いを帯びる。11月上旬から12月上旬にかけて、この寺では収蔵品の特別寺宝展が行われ、訪問者は公開された画仙堂内部の見事な芸術作品を見ることができる。この同じ期間、每晚5時30分から8時30分までライトアップされる。

冬

冬には、雪に覆われた寺院の敷地は厳しくも瞑想的な雰囲気包まれる。冬には、いくつかの重要な佛教行事が行われる。12月8日は成道会でお釈迦様が悟りを開いた日を祝う。12月31日の真夜中には、寺の鐘が108回鳴り、仏教の適切な受け入れを妨げる絶望感や嫉妬心など不純な精神状態、煩悩（サンスクリット語：クレーシャ）を取り除く。2月15日の早朝、僧たちは、1082年の永観律師の奇跡的な体験を称えて、みかえり阿弥陀像の周りを数時間にわたって念佛行動をする。この朝会は、予約により一般の参加者にも公開されている。（詳細については、永観堂のウェブサイトをご覧ください。）